

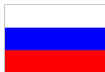
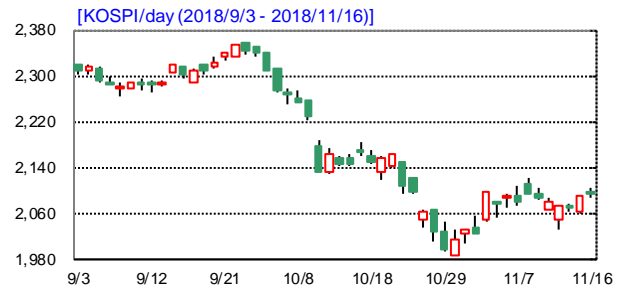


## 【韓国】 総合指数は週間で0.3%高と小反発、今週は2100ポイント試す展開か

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.3%高と小幅に反発。週前半は米株安を嫌気する売りに押されたが、後半に持ち直した。週明け12日からの3日続落で、14日は約2週間ぶりの安値で引けた。ただ、15日は米長期金利の上昇が一服し、アジア市場からの資金流出に対する警戒感の後退で5営業日ぶりに反発。16日も米株高を受けて小幅に続伸した。個別では、空運の大韓航空や造船の現代重工業、大宇造船海洋の上昇が目立った。LG化学もしっかり。半面、不正会計疑惑の渦中にある医薬会社サムスン・バイオロジクスが前週に続いて急落し、同業のセルトリオンもつれ安となった。今週は上値抵抗として意識される節目の2100ポイントを試す展開か。不安定な米ハイテク相場や米中貿易交渉の進展、米ドル相場が材料となりそうだ。

▼指数チャート

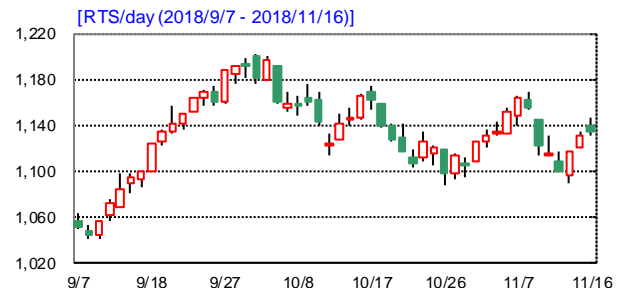


## 【ロシア】 RTS 指数は1.2%高と反発、今週は原油相場をにらみ神経質な展開か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.2%高と反発。原油安を受けて軟調なスタートとなったが、その後は原油相場やルーブルの持ち直しに加え、米国による対ロ追加経済制裁の年末までの留保観測が好感され、反発した。週初は米国がロシア企業に対する経済制裁を再延長すると発表したことが嫌気され、売りが優勢。13日も原油安を受けて資源株が下落し、指数は終値で約2週間ぶりの安値を更新した。その後は原油相場の反発を好感した買いや自律反発狙いの買いが相場を支えた。米国が年末までに経済制裁を追加しないとの観測が広まったことや、ルーブルが対ドルで大きく反発したことも安心感につながった。指数は14日から16日まで3日続伸して終了した。今週は原油相場や米国による対ロ経済制裁の動向をにらみ、神経質な展開か。

▼指数チャート

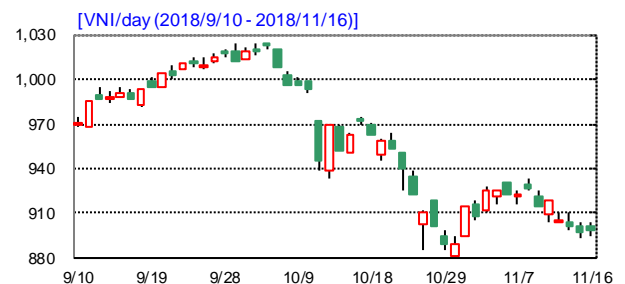


## 【ベトナム】 ベトナム指数は1.8%安と続落、今週は値ごろ感からの買いが支えか

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.8%安と続落。米国株の下落や中国経済見通しの悪化を背景に金融株などを中心に軟調な展開が続く、15日には終値で月初来安値を更新した。週明け12日は金融株と生活必需品株が買われ、指数は上昇したが、その後は週明けの米国株の大幅な下落や中国の景気減速の長期化見通しを背景に金融、不動産株を中心に売りが広がった。米国株の続落を受けて投資家心理の悪化が続き、15日のVN指数は897.15ポイントで引け、約2週間ぶりに節目の900ポイントを割り込んだ。16日は米中貿易摩擦が緩和に向かうとの期待感から多くの東南アジア市場と同様に買われたものの、それまでの下落幅を埋めるには至らなかった。今週は米中貿易問題の動向をにらみつつも、値ごろ感からの買いが支えとなるか。

▼指数チャート

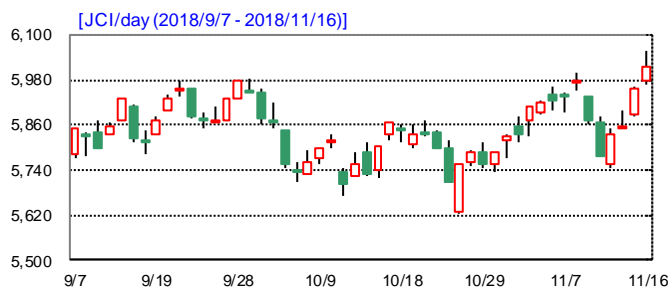


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.4%高、中央銀行が今年 6 回目の利上げを決定**

ジャカルタ総合指数は週間で 2.4%高と反発。週初に下落したものの、その後は堅調に推移した。12日は前週末に発表された中国の10月の生産者物価指数が4カ月連続で前月を下回ったことが嫌気され、指数は前営業日比 1.7%安と続落したが、13日は反動で買われて 1.0%高と3日ぶりに反発。15日は中央銀行が今年6回目の利上げを決定したことが好感されて前日比 1.7%上昇した。地合いが好転する中、16日は金融株と通信株が買われ、指数は前日比 1.0%高と終値で2カ月半ぶりに 6000 ポイントを回復した。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因が焦点になる。20日はムハンマド降誕祭のため休場。

### ▼指数チャート

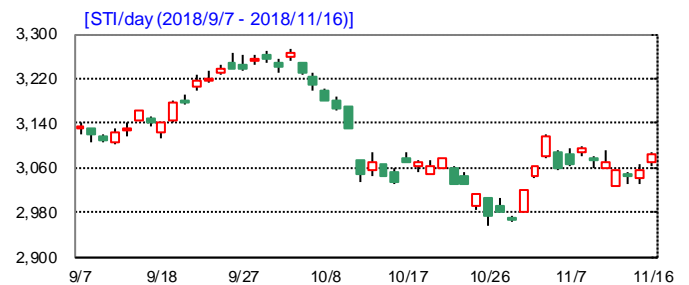


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.2%高、10月の非石油地場輸出が好調**

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.2%高と反発。週末の上昇が奏功した。週初の12日はシンガポール・テレコムと DBS グループが指数下落を主導。その後もじりじりと下値を広げ、14日まで4営業日続落したが、15日は米中貿易摩擦の緩和に対する期待感が高まったことを受けて反発した。16日は10月の非石油地場輸出が前年同月比 8.3%増と市場予想の 1.0%増から大幅に上振れたことが好感され、指数は終値ベースで前日比 1.0%高と続伸して取引を終えた。今週は22日に7-9月の GDP 確定値、23日に10月の CPI が発表される予定。外部要因では米中貿易懸念の後退が続けば株式相場の追い風になる。

### ▼指数チャート

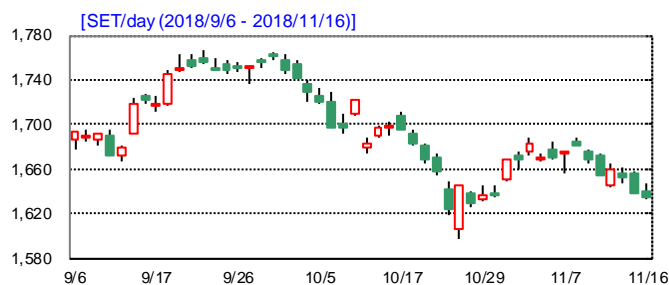


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.0%安、今週は 7-9 月期の GDP 成長率が焦点**

SET 指数は週間で 2.0%安と続落。総じて軟調な値動きだった。週初の12日は世界経済減速に対する警戒感の高まりが嫌気され、続落してスタート。13日は消費関連株が買われて3営業日ぶりに反発したものの、14日は原油価格が下落した影響でエネルギー株が売られて反落した。中央銀行は同日に開催した定例会合で、政策金利を市場の予想通り 1.50%に据え置いている。株式市場では、その後も買い材料に乏しく、結局週末まで3日続落して取引を終えた。今週は19日の7-9月期の GDP に続き、22日には10月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定で、貿易収支が前月に続き黒字を維持すれば好材料。

### ▼指数チャート

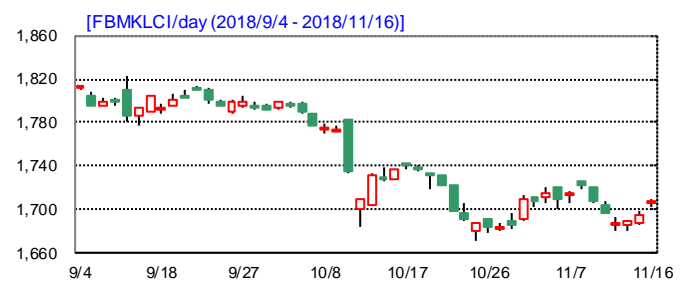


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%安、週末に 1700 ポイントを回復**

クアラルンプール総合指数は週間で 0.1%安と続落。週半ばに上昇に転じたものの、前半の下落を補えなかった。週初の12日は米ドル高・リンギ安が嫌気され、指数は続落して終値で 1700 ポイントを割った。13日も売り優勢だったが、14日は引け際に買われて小幅ながら4営業日ぶりに反発した。15日は中国株の上昇に連動して続伸すると、16日は前日の NY ダウが反発した流れで 1700 ポイントを回復して引けた。同日に発表された7-9月期の GDP は前年同期比 4.4%増と市場予想から下振れたが、影響は軽微だった。今週は23日に10月の CPI が発表される予定。20日はムハンマド生誕祭のため休場となる。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。